

# 建築設計演習Ⅴ

## 豊川市職員を交えた講評会

2020年度課題：  
豊川市八幡駅前複合施設計画  
プロジェクト

担当：浅野純一郎・辛島一樹

## 講評会の概要

2020年度の建築・都市システム学課程3年生後期に開講した建築設計演習Ⅴの設計課題、「豊川市八幡駅前複合施設設計画プロジェクト」の最終成果発表会を実施しました。その際、対象地の状況に精通する豊川市都市計画課の職員の方3名をお招きし、学生の発表内容に対してコメントをいただきました。

実施日：2021年1月27日（水）

場所：豊橋技術科学大学D棟5階製図室

## 課題の背景と目的

### 八幡駅前の商業施設の魅力向上による都市拠点としての価値再生

豊川市は人口18万程度の地方都市であり、東三河地域の一部として生活圏、文化圏を形成してきた。鉄道はもちろん高速道路のICも近く、近年23号バイパスの整備も進み、東三河だけでなく名古屋へのアクセス性、周辺からのアクセス性も高い都市である。

豊川市は近世以降、交通の発達とともに人々の往来も増え、東海道や本坂通（姫街道）、伊那街道などの街道筋のまちとして、また、豊川稻荷の門前まちとしてにぎわいを見せてきた。昭和14年からは、東洋一といわれた海軍工廠の建設とともに人口が増加し、周辺地域の開発が急速に進んだ。地域の急激な発展に伴い、豊川町、牛久保町、国府町、八幡村の3町1村が合併し、昭和18年に県内で8番目の都市として豊川市が誕生した。1945年の戦災により人口が半減したが、以降は、農商工の産業のバランスの取れた都市としてめざましく発展してきた。しかし、少子高齢化の進行等により、平成20年度をピークに、人口減少傾向となつた。

このような人口減少は豊川市に限らず、全国的に進んでいる。その人口減少社会への対応のため、「コンパクトシティ」が掲げられ、その実現に向け各自治体で計画が策定されている。豊川市では第6次総合計画において、コンパクトシティの推進が掲げられ、国府、八幡、一宮、音羽、御津、小坂井の各地区の主要な鉄道駅周辺の市街地を「地域拠点」と位置づけられている。

（地域拠点：公共施設や商業などの地域の特性に応じた都市機能が集積し、各地区の暮らしの中心に位置づける地域。）

また、全国的な動向として、コンパクトシティの一層の推進のため、2014年8月に都市再生特別措置法が一部改訂され、今後の都市全体の構造を見渡しながら、住宅及び医療、福祉、商業、その他の居住に関連する施設の誘導と、公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを推進する、立地適正化計画制度が創設された。豊川市も2017年3月に同計画を策定している。その内容をみると、八幡駅は別添の図のように都市機能誘導区域として位置付けられている。駅の南側に豊川市民病院が立地し、その病院の南側に隣接するスズキ自動車の工場跡地には、イオンモール豊川（仮称）の進出計画が立ち上がっている。更に東側に隣接する日立メカトロニクス工場跡地には、新文化会館などの公共施設の建設案も存在し、今後、地域拠点として都市機能の集積が図られるエリアである。

そこで本課題では、豊川市の今後のコンパクトな都市構造の実現を考える上で非常に重要な意味を持つ、地域拠点の一つである八幡駅を中心としたエリアに着目し、地域拠点の魅力向上に寄与する商業施設（大型ショッピングセンター）のあり方を考えてみたい。

その際、今の地方都市における財政事情を直視すると同時に、対象地区の持つ魅力・課題を把握し、魅力を生かし課題を改善する計画、事例などを通して近年の・将来を見据えた商業施設の計画手法を読み取り、商業施設計画のあり方と周辺との調和を意識して設計・計画することが重要である。

# 対象地



## 対象地



# 講評会の様子









# 成果物のイメージ

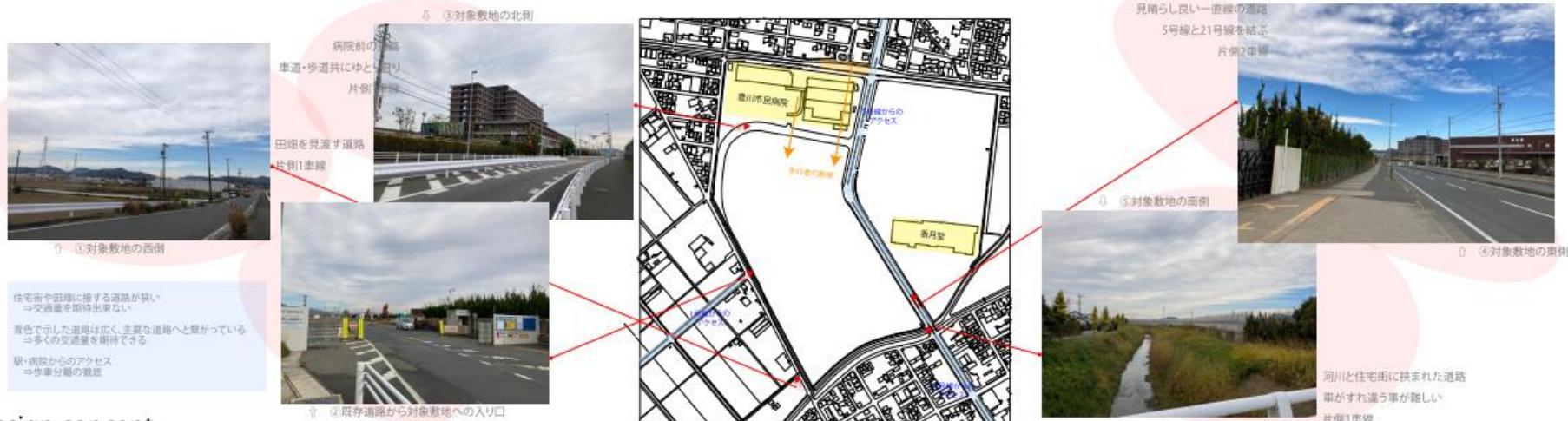
※データを得られた3つの班の情報を掲載する。

# とよまちモール

～光と風を取り込む商業施設～



# Site



# Design concept

既存に見られるショッピングモールは規格的な形状が多い。  
密閉された内部空間を形成し、外との開通性が希薄である。

対象敷地は今後、コンパクトシティの推進が掲げられ。

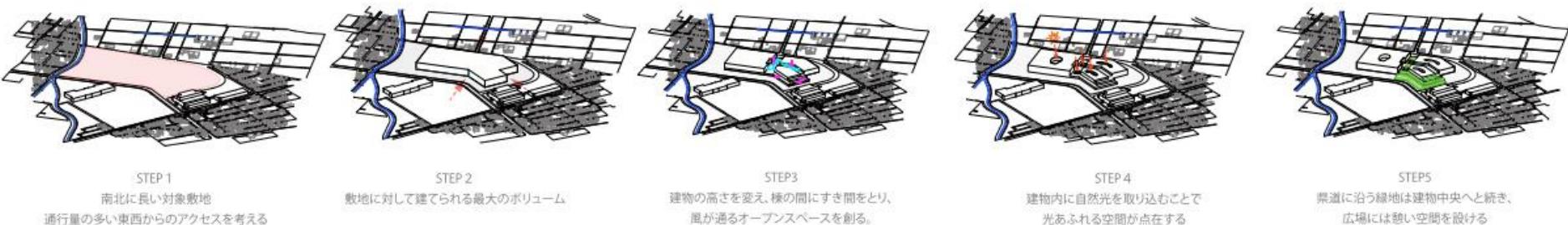
人々が集中する地域となるだろう。

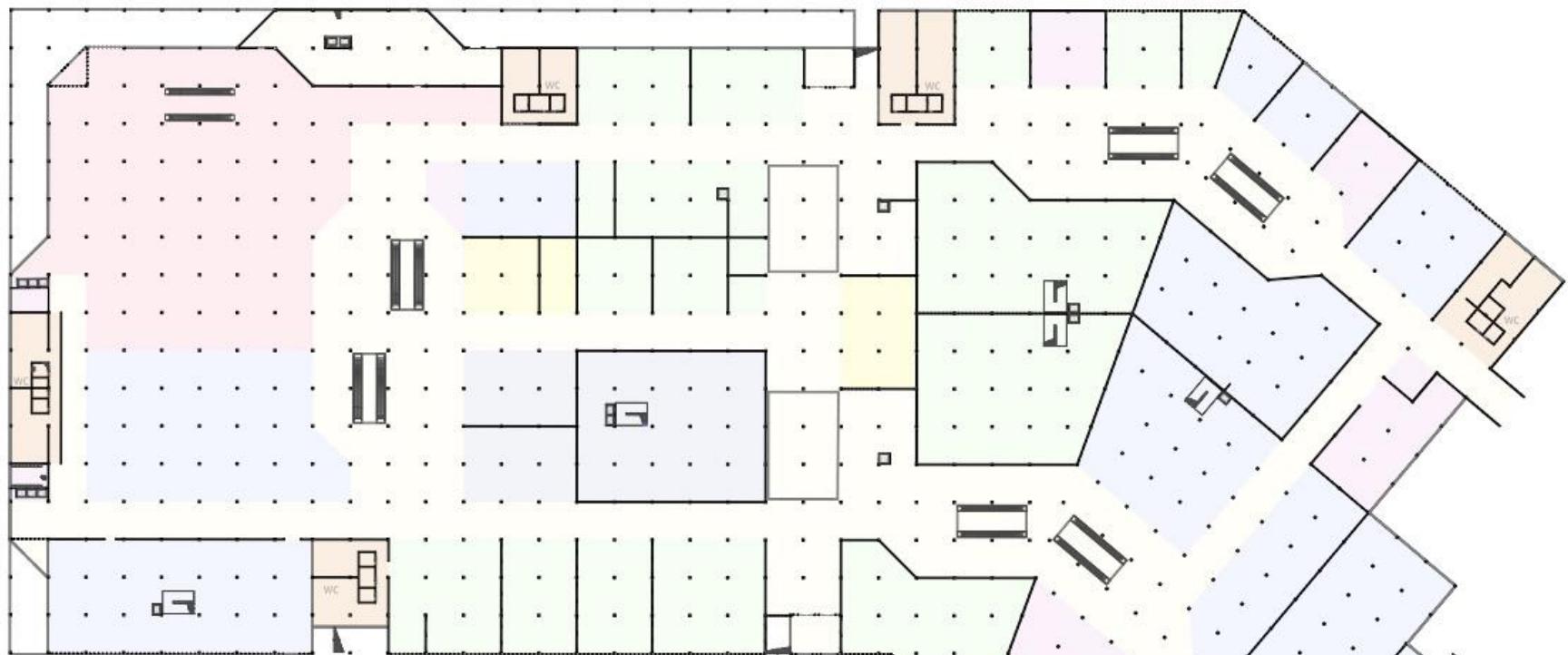
多くの店舗を有する商業施設は、従来の形状を保守するのではなく、  
地域に開放的な空間が求められるのではないかだろうか。

私たちは、自然との調和をはかり、人々の憩い所となる商業施設を提案する。



# Diagram





スーパー・マーケット

サービス

ファッション

グッズ

レストラン・フードコート・カフェ

面積表	
4F床面積	25,300m <sup>2</sup>
3F床面積	45,500m <sup>2</sup>
2F床面積	56,200m <sup>2</sup>
1F床面積	54,700m <sup>2</sup>
北立体駐車場	6段×5,500m <sup>2</sup>
南立体駐車場	7段×8,600m <sup>2</sup>
建蔽率	45%
容積率	174%

Plan\_1F S=1/500



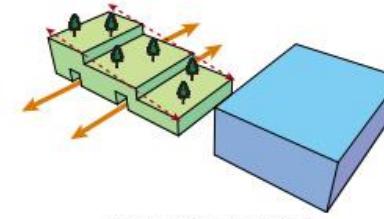
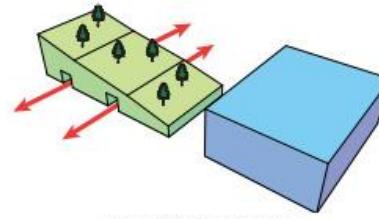
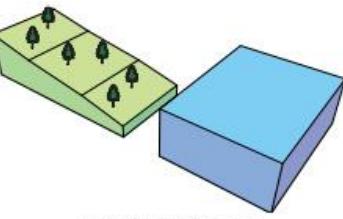
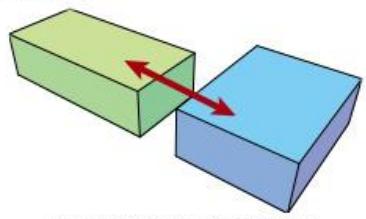




# 豊川市八幡駅前複合施設設計画プロジェクト



デザインプロセス



最初のショッピングモールのように大きな緑と青に壁面を与えてしまう

表面に対して丘のように斜面があるカーブムードにする

複数の交通形態に対応するために、一箇所分に軸道を設ける

屋上を望み、周囲を駅からの視線に対して開放感を演出する

面積表(店舗面積)

床面積	面積	面積	面積
1F	17422.58	14528.18	18225
2F	31981.73	37741.55	13026
3F		34229.45	14603
4F		57216	14603
5F		486.25	14627.2
6F		34298.74	40198.75
	34298.74	40198.75	82299.98

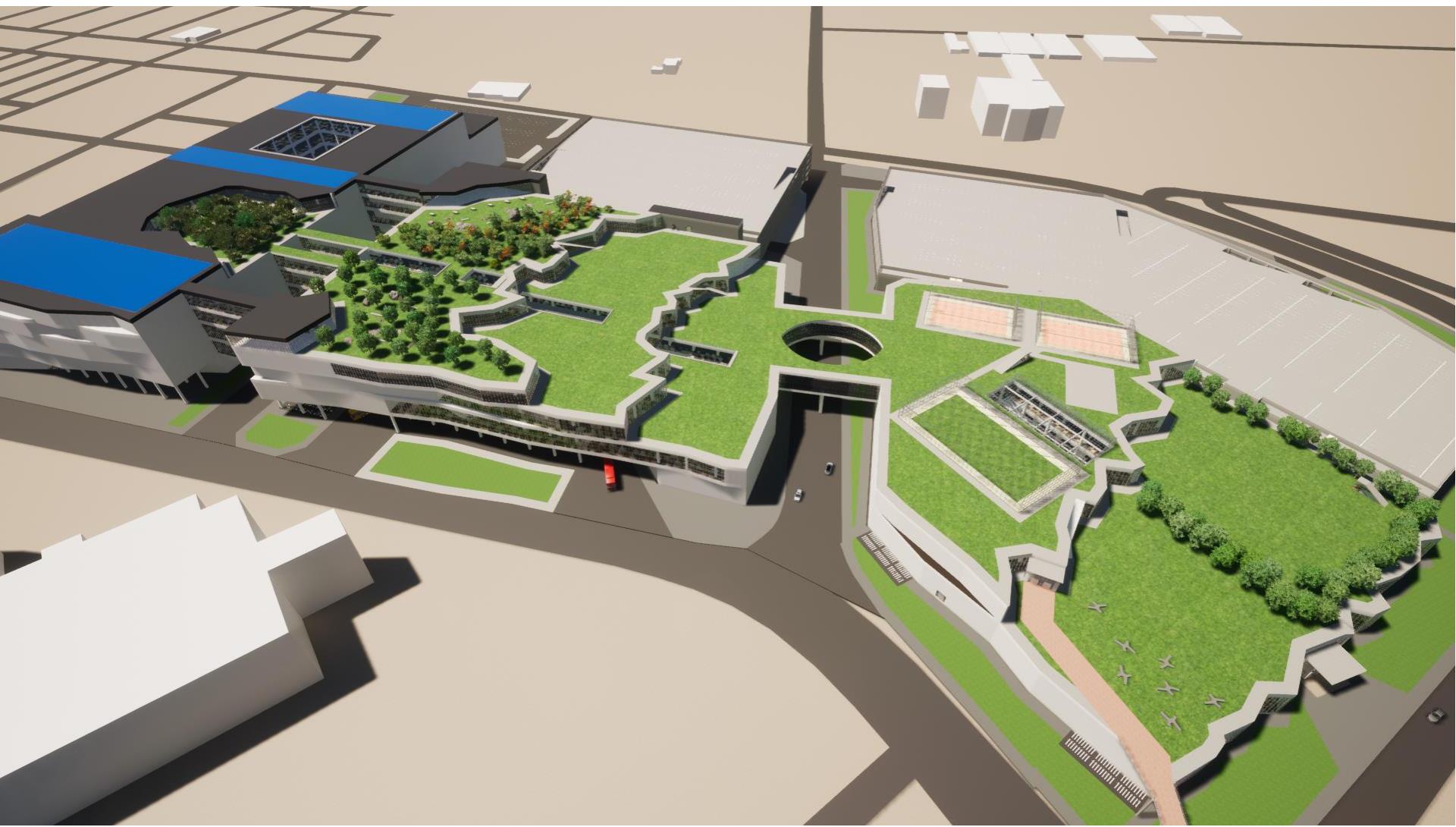


m



200m  
100m  
0m





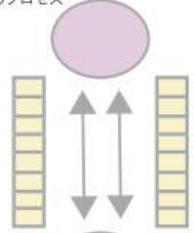


# ショッピングモール + 1

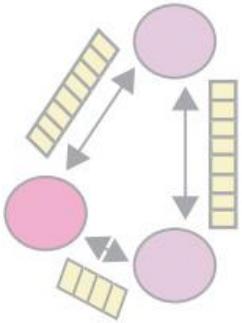
カラフルなファサードをもつショッピングモール  
輪状の通路と大きな吹き抜けが人々のショッピングを促す  
最上階にある外部空間が1日の中で表情を変え  
買い物に彩りをもたらす



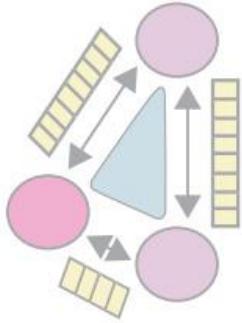
プラン決定のプロセス



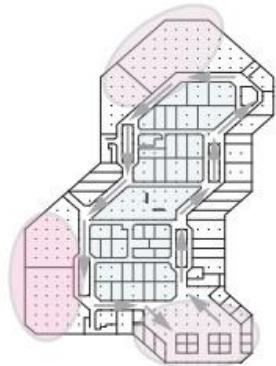
1. 通常の2核1モール型



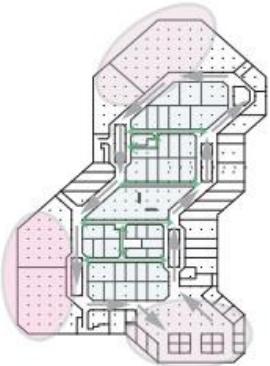
2. 第3の核と膨らむ連絡



3. 中央エリアが活性化



4. 通路が細かく分割され、私的のグループ（エリア）ができる



5. 中央エリアがプロペラ型に分割される



6. 1階から4階まで伸びる吹き抜けと直線のエスカレーター



▼ 南の広場

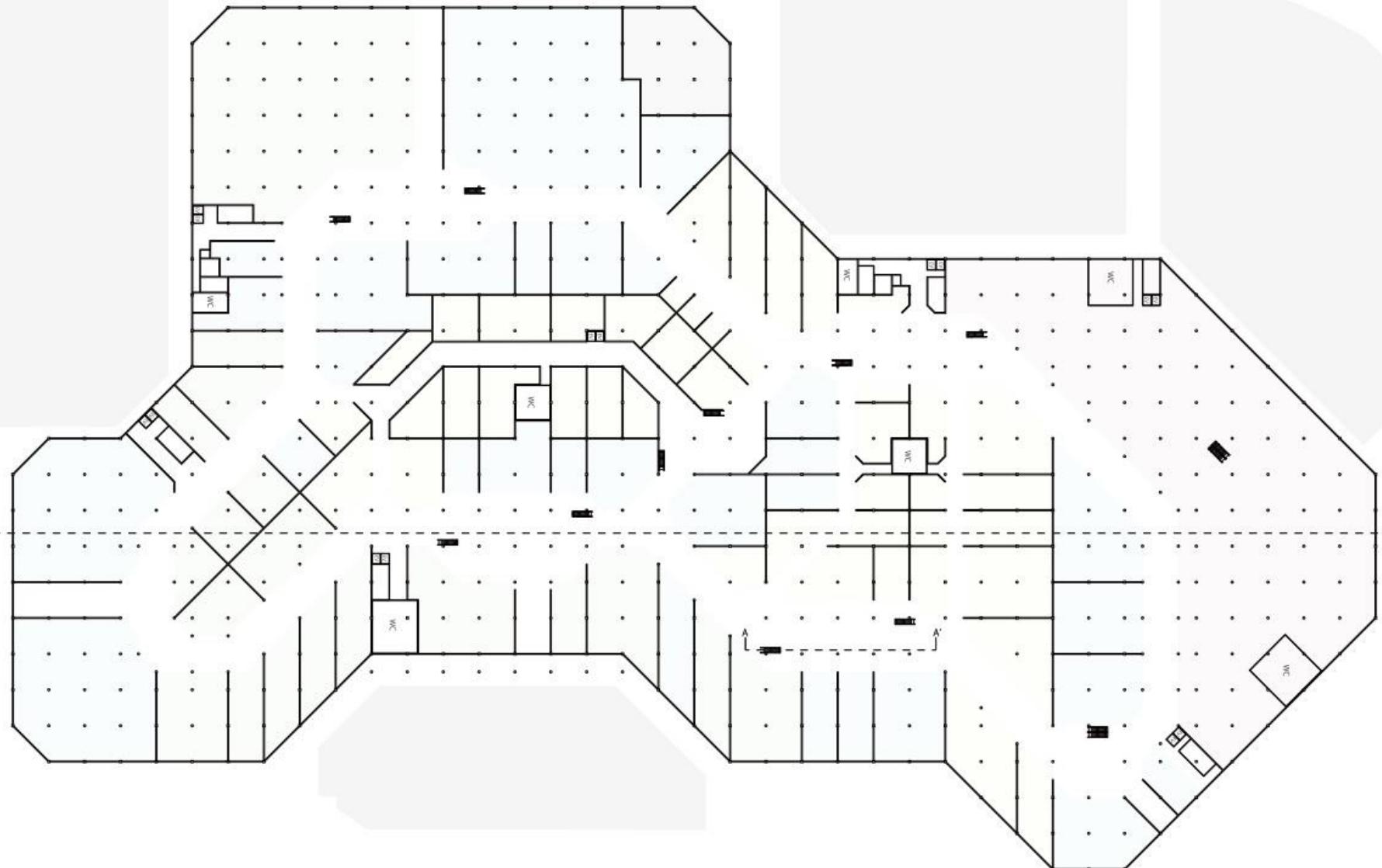


▼ 駅からの人を迎える北広場



▼ アトリウムと春の広場





1 階平面圖 S=1/500

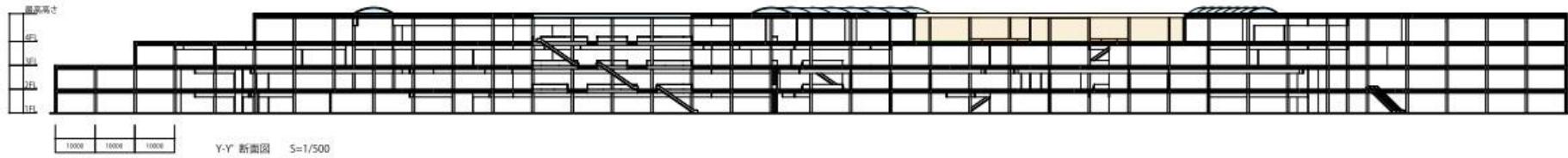
- 10 -

— 10 —

100-1000

- 10 -

八四



面積表	
1階床面積	57500 (m <sup>2</sup> )
2階床面積	56800 (m <sup>2</sup> )
3階床面積	55000 (m <sup>2</sup> )
4階床面積	43890 (m <sup>2</sup> )
ショッピングモール 延べ床面積	213190 (m <sup>2</sup> )
立体駐車場面積	75200 (m <sup>2</sup> )
緑化率	38 (%)
容積率	192 (%)

東立面図 S=1/500

東立面図 S=1/500

